

# 佐伯史談

第百号

「郷土史研究」誌  
通算百二十二号

昭和五十年五月廿一日発行

佐伯史談会  
事務所 佐伯市大字鶴岡龍藏寺 羽柴方

所感

## 佐伯史談第百号の刊行

佐伯史談会  
会長 高水嘉吉

佐伯史談の第百号が刊行されることは、郷土史研究にとつてまことに同慶の次第である。

顧みると昭和三十三年三月、鶴岡地区の同好者によつて、まず「鶴岡郷土史研究会」が発足し、その推進によつて、三月十六日龍藏寺で「佐伯史談会」を結成した。

そしてこの二つの会は、機関誌として「郷土史跡」と題する、僅か四ページのまことに粗末なものをも四月五日に発行し、八月の第五号から「郷土史研究」と改題した。

以来「郷土史研究」は大体毎月発行され、二十二号までつづいたが、事情があつてその定時発行をしばらく休止した。しかし二つの会は停滞することなく成長し、昭和三十九年の末を迎えた。

この時点で、実質的に一体となつていた鶴岡郷土史研究会と佐伯史談会の、二つを名乗る面倒さを排して、さらに佐伯市及び南海部に同志を求めて大同団結した。そ

して機関誌も改めて「佐伯史談」とし、その初号が発行されたのが、昭和四十年の一月であつた。

それから数えて十年、（会の発足からだ）十七年、定時発行をつづけ、今月でちょうど百号になつた。「郷土史跡」「郷土史研究」から数えると百二十二号になるが、この通算は今後も大事にしていきたい。

一口に百号といつても百号続いたことは、偉大な事実である。「佐伯史談」に収めるところのものは、史跡・文化財などの実地踏査の記録、諸文献による郷土史実の究明、郷土史を中心にした種々の提唱など多岐にわたるが、いずれ

### 第百号特集号内容

- 所感 佐伯史談第百号の刊行（高水嘉吉）
- 藤橋階修復工事雜感（清岡義雄）
- 佐伯城建築考（小野英治）
- 海部と海人族（佐藤貫一）
- 舟尾史伝（佐伯水雄）
- 新原町の古蹟（羽柴方）
- 藤網と網けんか（安藤弥智門）
- 佐伯風土記（山田武親）
- 山田俊野先生小伝（平田幸重）
- 黄川先生と佐伯函（山本保）
- 神話の演進日向泊（羽柴方）
- 赤木部族の自林（渡邊格夫）
- 除夜の火（清原正人）
- 血盆経塔（山本保）
- 洋楼三朝（川村崇弘）
- 龍藏寺の手鏡（羽柴方）
- 早春の日向路（高沢泰）
- 河野洪一氏（羽柴方）
- 決算報告（羽柴方）
- 会費徴収、会員消息（羽柴方）

